

日高南部地域の林業の活性化

地域課題の解決に向けた取組

日高南部森林管理署

当署では、以前から多くの地域課題に取組んでまいりました。その代表例が、えりも岬の緑化事業です。えりも砂漠と称された強風地区（風速10m以上の日が年間270日以上）で飛砂に苦しむ住民との60年にも渡る緑化活動（木本緑化）が成果を上げつつあります。



【えりも岬】

まず、飛砂の防止はもちろんですが、以前は砂で濁っていた海岸が透明になり、海に魚が戻って来ており、漁獲高が緑化着手前と比較し6倍にもなったとのこと

で、地域に与えた効果は想像以上のものとなっているようです。えりも緑化事業は、今後も地域住民と共に活動を展開していくこととしていきます。

もう一つ重要な地域課題として民有林・国有林が一体となった人工林資源の活用があります。

当署管内の主な産業は、軽種馬生産・漁業・農業で、林業・林産業は産業構造の変化等で衰退の一途をたどってきました。そのような中でも管内人工林（約4万ヘクタール、民有林67%、国有林33%）は、成熟期を迎えています。

その人工林資源を有効に活用すべく積極的に関係行政機関と連携を図り取組目標を設定し、現地施業検討会や意見交換会を開催しています。

○搬出間伐・列状間伐の推進
日高管内の一般民有林の

森林整備（平成27年度公共補助事業）での除間伐を見ると、搬出に取組んだ面積は全体の2割に止まり資源の有効活用が十分図られておらず、列状間伐に至っては1割に止まっています。



【森林組合との意見交換】

このため、森林組合への支援を目的に意見交換を行った結果、「搬出間伐の推進には、森林所有者に団地化による施業集約と作業効率の良い路網配置等の理解が得られるれよう、メリットの周知や取組事例を地域に広げることが必要不可欠」

この結論になりました。これを受けて、10月に国有林の取組事例も参考に、搬出間伐等が森林所有者に受け入れられることを目指した検討会を行う予定です。

○木質バイオマス資源の供給

昨年11月、様似町にバイオマス発電用チップの生産工場が完成し本稼働しています。



【木質バイオマス：未利用資源】

当署では、木質バイオマス資源の安定供給の取組として、昨年からは林地未利用材の情報発信と販売を行っ

ており、本年は、立木・素材システム販売、初回間伐を中心とした木質バイオマス資源としての利用を視野に入れた搬出可能なまとまりのある間伐箇所の掘り起こし等の取組を行っています。

なお、同工場を運営するひだか南森林組合では、間伐作業時に末木枝条等を素材と一体的に集荷することを前提とした作業仕組みの導入により、同工場で使用する原料の3割は末木枝条等となっています。このような取組が全道に広まることを期待しています。

このほかにも、GPSの活用等により民・国有林共通の図面を作成するための研修を通じ、民有林と国有林が効率的な路網整備や間伐等の森林整備の推進に向けて連携を図り、地域課題の解決に向けて取組むこととしています。